W校中高等部だより

球技大会特集

平成二十八(二〇一六)六月四日
ニューヨーク補習授業校W校



今年度もW校中高等部の球技大会が五月十四日に盛大に行われました。前日の雨で、校庭の状態が心配されましたが、予定通りサッカーも行われることとなり、球技大会に参加した中高等部の生徒たちは、さわやかな汗を流しました。

また、生徒たちは、クラスごとに色を決めたTシャツに、各クラスで考えた独特のデコレーションを施し、大会気分を盛り上げました。

球技大会は、中等部二年の武田さんの元気の良い選手宣誓を合図に、男女混合縦割り八チームに別れ、バスケットボール・バレーボール・ドッジボール・サッカーと四競技を行いました。また、最後は紅白に分かれての全員参加の大ドッジボール大会も行いました。自分の得意な種目だけでなく、各種目、生徒たちは盛り上がって楽しみました。

二週間前からチームごとに昼食をとったり、チームワークを高める活動(チーム名確認ゲーム、名前覚えゲーム、チーム練習など)をしたりしてきたことで、グループ同士の顔や名前を覚え、高等部のリーダーを中心にまとまったチームができました。生徒たちが汗をかきながら得たものは、学年やクラスを超えた団結・協力・相互理解、そして、諦めない心。生徒たちにとって、この球技大会は補習校ならではの思い出作りの場となりました。

競技に参加した生徒一人ひとりの活躍する姿、下級生を思いやり、チームを上手く牽引する高等部のリーダーの頼もしい姿、普段の授業日には見られない新しい姿をたくさん見ることができました。



総合成績

一位:Cチーム

二位:Dチーム

三位:Fチーム

競技ボランティアの皆さん

卒業生　三井さん、清水君、前田さん、中田君

競技ボランティアを卒業生にお願いしました。卒業生たちは、この球技大会の準備のために来校し、ジムのバレーコート、バスケットコート、ドッジボールコートのラインテープ貼り、ネット設営などの準備に献身的に取り組みました。また、大会運営のため、準備から進行、後片付けまで、影でこの大会を支えてくれた保護者会ボランティアの皆様にも感謝申し上げます。

球技大会

中等部一年一組　宮西　あかね

初めての球技大会。その当日、私はまだ高まる期待の中に不安を感じていた。オレンジ色のクラスTシャツを着た。自分で描いたカメを着ると、期待がふくらむ。急いで車に乗り込んで考える。

球技大会って、どんな感じだろう？これが不安の種だ。種目は分かっているけれど、流れが分からない。「仮のチームメイト」も、名前が思い出せない。しかも私はスポーツが下手な上に背が低い。不安の種その二だ。バスケのボールは、背の高い人へと飛んでいく。

教室では、みんながカメTシャツを着ていた。オレンジという色は、三原色の中でも明るい二色を混ぜてできる。気合いが感じられるのも、期待がまた高まり始めるのも、無理なことでは無いと思う。

昼食はチームごとに食べた。Hチームは顔合わせの時とほぼ同じメンバーだ。

本番。まずはサッカーだ。審判によると、キーパーの頭より上を通ったボールは得点にならないそうだ。私はキーパーになった。こんなキーパーにゴールをまかせなければならないチームメイトに申しわけない。しかし、実際シュートは二、三回しか来なかったし、全て得点にならなかった。二対〇で勝ったのだ。

バレーの試合もなかなか良かったと思う。チームにまとまりがでてきて、全員がボールにさわった。そして、勝った。

他の二つの競技では負けた。でも全員それぞれの存在を感じたはずだ。私は、バスケでシュートこそできていないが少しでも相手のかべになれたと思っている。

この球技大会で私は協力し合うチームの中で、自分にも一人分の責任を感じることが出来た。

変わる

中等部一年1組　小野　智名美

私はスポーツがあまり好きではない。なぜなら、パスやシュートをミスした時に、責められるのがいやだからだ。

そんな時、補習校の球技大会があった。私の好きでないスポーツであったが、運動会での徒競走がないのでいい方だと思った。

私達B班の最初の種目はサッカーだった。私はボールを奪うことが出来ず、やっと取ったと思っても相手に取られ、負け。次のバスケットボールも、そのような感じで負けそうだった。後半になって、後半は出ない人達が座ってる、菊地さんがつぶやいた。「私達にはチャンスがないみたい。」

私もそんな気持ちになった。その時、キャプテンが二連続シュートをしたのだ。私達は、喜んで拍手をした。バスケットボールでは負けたが、その時初めてスポーツで喜んだ。次のドッヂボールで私達は奇跡を見た。相手のコートには一人しかいなくて、「私達が勝つ番だ。」と思った。その時、相手がボールを投げてきた。私はよけようと思ったが、当たってしまった。でも良い事に顔に当たったので相手がアウトになった。そして初めて勝ったのだ。

その後も、バレーボールで勝ったのだ。

私は球技大会に出てよかったと今では思っている。一、二、三位にはなることができなかったが「あきらめてはいけない」ということを学んだ。なぜなら負けた時にあきらめていたら、ドッヂボールやバレーボールで勝った時にその喜びを分かち合う事が出来なかったからだ。

私は今から来年の球技大会を待てないと思った。



喜びは、力に変わる

中等部一年一組　シュワルツ　世音観

「勝った！」その気持ちが忘れられない。「一位はCチーム！」と呼ばれたときの嬉しさが身体中を駆け抜けた。

私はもともとスポーツをするのが大好きだ。走ったり、飛んだり、ボールを蹴ったり、ボールを投げたり。何をやっても楽しいと思う。だから私は、初めての球技大会が待ちどおしかった。

しかし、大会が始まる時になると、私は少し不安になった。知らない先輩もいる。私は自分がどんな風に動けばいいのか想像ができなかった。

けれど、一旦ゲームが始まってしまうと、そこにはスポーツが大好きないつもの私がいた。いつもどおりに自信を持って、ボールを投げたり、走ったり、飛んだりしている私だ。そして、いつの間にかチームの一部となって、上手にプレーできていることに気がついた。すると、私はますます楽しくなって、ますますチームとして上手くプレーできているという自信が出てきた。そして気がつくと、私たちのチームが優勝していた。

振り返って思うと、楽しい気持ちでプレーして、それが自信につながって、チームメイトの気持ちが「負けても大丈夫。この楽しさをこのまま力にして進んでいこう。」というような気持ちにまとまったから優勝したのだと思う。

これからも、チームで何かをするとき、そして一人で何かをするときも、自分が楽しめているかを大切にしたい。なぜならそれが、本当の自分の力につながるからだ。



初めての球技大会

中等部一年二組
松下　愛理

初めての球技大会。私は知らない先輩たちに囲まれて緊張した。

「上手くできなかったらどうしよう。」

「チームのみんなと力を合わせれば勝てるかな。」

私はワクワクした気持ちと心配の気持ちと両方の気持ちでいっぱいだった。

最初の球技はバレーボールだった。始めはまだお互いのことを知らず、息が合わなくてラリーが続かなかった。でも、慣れてくるうちにうまくパスができるようになった。最初の試合は勝った。一勝対一勝で、引き分けだった。

次の球技はドッジボールだった。そのころには私はチームのみんなに慣れてきて、緊張していた気持ちも心配していた気持ちもいつの間にか消えていた。ドッジボールをする時に、「もとがいや」を決めた。私はその意味がよく分からなかったので、勇気を出して先輩に聞いてみた。

「ゲームが始まる前にすでにアウトの人のことだよ。」

と、親切に答えてくれた。私がお礼を言うと、試合が始まった。汗をかいて頑張った結果、見事に勝った。私はうれしくなって、あとの二つの球技もやる気になった。

ドッジボールに続いてバスケットボール、サッカーをした。バスケットボールは相手のチームが強くて最初は負けてしまった。でも、次の試合は勝って、結果は引き分けだった。サッカーは六対二で見事に勝った。

私のチームは最終的に二位になり、ちょっとした賞品をもらった。私はまさか自分のチームが二位になるとは思わなかったので、びっくりしたけど、うれしかった。

私にとって初の球技大会はとても楽しかった。自分はスポーツがそんなに得意ではないけれど、みんなで息をあわせて頑張ったから勝てた。私は今回の球技大会でチームワークの大切さを学んだ。

球技大会を終えて

中等部一年二組　立川　旺佑

五月十四日に球技大会がありました。中等部に入って初めての行事なので、すごく楽しみでした。しかし、それと同時に不安でもありました。なぜなら、まともに会話をしたことのない高等部の先輩達とチームを組まなければいけないからです。

しかし、そんな不安はすぐに吹き飛びました。なぜなら、先輩達はとても優しく、思いやりに溢れていたからです。僕は先輩達とすぐに馴染めました。試合中も絶対に個人プレイに走らず、チーム全体を平等に扱う先輩は、とてもかっこよく見えました。

僕もいつか先輩達のような優しい人間になりたいと思います。今回の球技大会で、僕は勝つことよりも大切なことを学びました。新しい学年はまだ始まったばかりなので、これからの行事がとても楽しみです。

初めての球技大会

中等部一年二組　武神亜弥

「がんばれ。」
ドリブルをしながら聞こえた。
「こっち、パスして！」
とチームの子が言い、パスした五秒後、二点取った。Aチームは負けていたが、みんな笑いながらバスケをしていた。

今年、私は中学一年生になり、初めての球技大会に参加できた。初等部の時は、運動会が毎年あり、クラスの仲間と一緒に盛り上がったのが一番の思い出だった。けれど、今回の球技大会では、クラスだけではなく、高等部、中二と中三の先輩と一緒に色々なスポーツをできた。初等部にはなかった高学年とのつながりがあって、チームとして協力できたのが、私にとって球技大会が運動会より楽しかったのだと思った点です。

校長先生が全校生徒におっしゃっていた通り、
「いいチームになるかは、みんなが決めることです。」
一回も話したことのない高校生と中学生と一緒にチームとして頑張れるのかは、その時不安だった。昼ご飯の時は学年ごとに話していて、自己紹介だけをした。それ以外は高校生がみんなに指示するだけだった。

けれど、バスケの試合が始まった時、チームのかけ声、合図や笑い声がでてきた。次のサッカーの試合では、みんな話さなくても、ポジションにつき、小さい合図をしたり、声をかけたりして勝った。その後のドッジボールとバレーボールでもかけ声が多くなり、だれかが間違えても、「大丈夫」と言い、協力した。

初めての球技大会は勝たなかったけれど、高学年の先輩と一緒に協力して、楽しい思い出を作れた。最後の全チームのドッジボールの試合の間、私は本当に中学に入学をしていて良かったと思った。これからのイベントも百十パーセント頑張り、学年関係なく、中等部と高等部で協力して盛り上げていきたい。

待ちに待った球技大会

中等部二年　パルミエリ　ケイシー

去年の球技大会から、僕はずっと次の球技大会を楽しみに待っていました。初めての球技大会がとても楽しかったのと、最後のドッジボールで負けてしまったから、今度は絶対に勝ちたい気持ちがあったからです。



そして、とうとうまた五月になりました。去年は一番下の学年だったけれど、今年は中二になったからもっと責任や役割があると思いました。チームを盛り上げて、キャプテンを助けることができたらいいな、と考えました。僕のチームは中一の子が多かったから、できるだけ参加できるようにしてあげたいと思いました。

ぼくは去年よりもバスケがもっと得意になったので、バスケで活躍したいなとワクワクしていました。バスケでは僕の弟が今年から中一になったので、弟のチームと勝負することになり、兄弟対決になりました。僕はいつも弟と練習しているので、絶対に勝ちたいと思いました。でも弟も頑張っていたので、最後は引き分けになりました。いいゲームになってうれしかったです。

次のサッカーの試合は、みんなで力を合わせてチームワークで頑張った試合でした。僕はサッカーがあまり得意ではないので、パスをたくさん出そうと思いました。そして、上手な子がゴールを決めたので、チームは勝つことができました。

球技大会は、勝つことだけが大事ではないけれど、バスケでもサッカーでもドッジボールでも勝てたのはやっぱりうれしかったです。今まであまり話したことがなかった人や、上の学年の人と仲良くなれたので、それが一番良かったと思います。そして、頑張った大会の後のアイスは、最高においしかったです。

球技大会

中等部二年　豊村真帆

今年は補習校中等部での二回目の球技大会でした。やはり一度体験していると、段取りや競技を知っているので、去年ほど緊張はしませんでした。しかし、去年と決定的に違うことが一つあります。それは、私が先輩になった、という事です。去

年は何も知らなかったので先輩達の指示に従っていただけでしたが、今年は指示をする方になり、その大変さに気づきました。そして、チームをまとめていた高等部の先輩方は尊敬すべきだと、改めて思いました。

私たちのチームはサッカー、バスケ、ドッジボール、バレー、と初めから体力が奪われる競技の、恐ろしい並びでした。サッカーではでこぼこのグラウンドを往復するだけで息が切れる上に、サッカー経験者もいなかったので、私たちのチームは完敗。そして次の競技のバスケでも、ピンチは訪れたのでした。体力はけずられ、おまけにまたもやバスケ経験者がいない私たちのチームの相手は、背の高い、運動神経抜群のバスケ経験者が勢ぞろいのチームだったのです。そして、嫌な予感は的中しました。十秒もしないうちに相手のシュートが決まったのです。後半から出ることになった私や先輩は必死に声をかけてサポートを心がけましたが、第一試合の結果は十対ゼロの瞬殺での交代でした。「絶対に一本でもシュートを決めてやる」と、闘争心を燃やしてコートに出た私は、目標通りシュートを一本決めました。試合は負けましたが、ただ立って見ていただけの去年と違い、チームに貢献できたので自分なりに納得できる試合でした。



移動中に次の競技は何だろう、と対戦表を見た私はニヤリとしました。ドッジボールという挽回のチャンスが私たちに微笑えんでいたのです！せめてドッジは勝ちたいと思った私は先輩達に続き、積極的に攻撃しました。相手の攻撃もかわせた上に相手にボールを当てる事ができて、とても満足の今大会初勝利でした。

最後はバレーボールという最高の終わり方でした。現地校でバレー部に入っている私にとって、待ちに待った競技がようやくやってきたのです。しかし、小さい小ジムと軽いボールの相性は最悪で、しょうちゅうボールを強く打ちすぎてアウトをとってしまいました。結果は引き分けとなり、皆くたくたで大ジムに戻りました。

三位以内にもなれなかった私たちのチームでしたが、今年はとても満足の球技大会でした。他の学年に顔見知りが出来たのも嬉しいです。来年は先輩達のようにチームを引っ張って、今度こそ三位以内になりたいです。

球技大会２０１６

中等部三年　三井大輝

中等部初めての球技大会は全部の種目で勝って優勝したのが嬉しかったけれど、三位に終わったにも関わらず今年の球技大会が一番楽しかったです。それは前の二年に比べて高等部の先輩二人がグループをまとめようと努力してくれたからです。今までの先輩たちは「こうやって、こうやろう」とリーダシップを発揮してくれましたが、低学年の僕たちはついて行くだけで、意見は求められませんでした。中一の時は球技大会を経験したことがなかったので、そんなものかと思いました。でも、今年の先輩たちはどうやったら勝てるかをチームで話し合う時に、皆はどうしたいのかと聞いてくれました。皆が意見を言った訳ではないですが、聞いてくれただけで、「一緒にやろう」という気持ちが伝わってきて、頑張ろうという気になりました。

僕はスポーツが好きなので、全部の種目を楽しみましたが、バスケットボールで一番活躍できました。自分一人でボールを持たない様にできるだけ他のメンバーにもパスをしました。でもすぐまた戻ってくることが多くて、その時は迷わずにシュートしました。バスケットボールだけ勝つ事ができました。一緒に頑張ったチームに貢献できて良かったです。

「高校生としての球技大会―去年との違い」

高等部一年　細野露可

高校生として初めてする球技大会。では、なぜ僕は、この四年間の間ずっと出ていた中高等部のイベントを「初めての球技大会」と呼んでいるのか。それは、高校生になって、学校の最上級生としての、今まで味わったことのない「責任感」を感じたか

らだ。最上級生として、高二の人たちと一緒に、中等部の人たちのリーダーになり、「リーダーシップ」を得なければいけないからだ。僕たちのBチームの高二の方が、司会をやってる間、「Bチーム」と書いてあるプラカードを持って列の先頭に立っている僕は、とても強い責任感を感じ、チームのキャプテンのように感じた。

その他、明るいピンクに、「高等ブー」と書いてあるTシャツが、ジムの中で下級生にとても目立ったと思う。

僕は、今まで通り、スポーツ部門では全力でプレーした。だが、サッカーとバスケで負けた。悔しかった。「なぜ負けたんだろう。」、「どうして僕は結構プレイ出来ていたのに、負けてしまったのだろう。」と思いつづける。試合の後、振り返ると、その負けた理由は、僕は自分勝手になり、あまりチームメイトのことを考えなかったからかもしれないという言葉が浮かんだ。「僕はまだ子供っぽい考え方しかできないのだろうか。」と自分に問いてみる。

自分勝手に行動し、身の回りのことを考えないガキの僕と、あまり変わらないのか。

そんな自分でいたくはない。

ドッジボールで、僕たちのチームが九対〇で勝つこともできた。その理由は、試合の前に、みんな一緒になって作戦を練ったからかもしれない。この勝利で僕は「自分一人では何もできないんだな。」と強く思った。

補習校のリーダーとして、しっかりとした考え方を身につけていきたい。これからの一年を、少しずつ大人として頑張って行きたいと思う。これから「蚤の市」、「夏祭り」「冬祭り」など、いろいろなグループ活動がどんどんやってくる。そして僕は、そんな中で、下級生のお手本になれるようになりたいと思う。

去年とは違う球技大会

高等部一年　宮部　航一

去年の球技大会から一年経ち、また球技大会の季節がやってきました。去年は二位という好成績を残したので、今年も去年と同じ様に連戦連勝して完璧な形で一位を狙っていこうと思っていました。とにかく僕は球技大会を最大限に楽しみたかったので、本気で勝ちに行くということを目標にして今回の球技大会に挑みました。

最初と次の競技であったバレーボールとバスケットボールは、それぞれ引き分けと勝ちで終えることができました。しかし、その後の競技であったサッカーとドッチボールは、バスケで本気で勝ちに行ったせいか、体に疲れが出始め自分が思う様に動けず、それぞれ一点も取ることが出来ずに相手に完敗してしまいました。全ての競技が終わったとき、僕は幾つかの反省をしました。一つは勝つことに気を取られあまり周りを見ず、自分一人で動いていたこと、二つ目は体力の配分を考えていなかったということです。僕は今年の球技大会は負けて、たくさんの反省点があったのでとても残念な気持ちで閉会式に出ました。

閉会式では自分に対して残念な気持ちがたくさんあったので内容はあまり聞き取れませんでしたが、



「第三位、Fチーム」という言葉が聞こえた瞬間、僕が持っていた残念な気持ちは嬉しい気持ちに一八〇度変わり、モノクロの世界からフルカラーの世界に入った様にとても気分が軽くなりました。サッカーとドッチボールで完敗してしまったのに、バスケットボールで稼いだ得点がここで活きて、バスケットボールで本気を出して良かったと思いました。

終わり良ければ全て良し、という言葉があります。僕はこの時この言葉を強く実感しました。何故なら、最後の最後で勝てたからです。その途中の暗い気持ちは最後に勝ったと感じた時に無くなりました。来年は僕の天敵が卒業していくので、来年こそは優勝を狙いに行きたいです。

球技大会

高等部一年　押川　春香

五月十四日、球技大会がありました。天候も良く、運動するにはもってこいの日でした。球技大会や体育大会というものはクラスでやるものだという思い込みがあった私は、チーム編成が縦割りであるということに驚きました。しかしこの縦割りのチームが他学年との交流を深めるのにとても役立っていたと思うので良かったです。

今の季節、現地校で何の運動もしていない私は、久しぶりに走ったような気がしました。バスケ以外の三つのスポーツはほぼ経験もなくてダメダメだったけれど、外を走りまわったりチームのみんなと協力することができたので良かったです。最終的な結果は三位でした。上位になったことも嬉しかったけれど、みんなで協力してとった順位だなと思いました。

この球技大会で私はクラスの仲も学年同士の仲も深まったと思います。まだまだこれからも行事はたくさんあると思うので、楽しんで行きたいです。

最後の球技大会

高等部二年　岩佐佳奈

毎年この時期、私はこの行事を楽しみにしています。球技大会は唯一他学年の後輩と一緒に交流できるからです。特に今年は最後。私はチームの後輩と団結して、負けてもいいチームだったと思えるよう頑張りました。年下の後輩達に積極的に話し掛け、いいプレイをした子には「ナイス！」、失敗した子には「ドンマイ！」とポジティブな雰囲気を保つよう努力しました。そのおかげで、バレーの時はみんなでパスして声を掛け合って、点数を他のスポーツより稼ぐ事ができました。

しかし、私はなぜか不満でした。最初はその不満の原因が全くわかりませんでした。しかしよく考えてみると、私は自分に不満があるという事に気づきました。何が不満だったかというと、高二でチームリーダーなのにもかかわらず、チームをうまくまとめられたような気がしなかったからです。そう思う理由として、私だけが張り切ってチームをまとめようとしているような気がしたからです。周りを巻き込む力がなかったのかな、と思いました。鹿内君のように、みんなを笑わせたり、「皆でやろう」とまとめる力が足りなかったのだと思います。その自分に対する不満のせいで、少し虚しい気持ちで終わってしまいました。

日本ではチームがまとまる事が一番大切という概念があります。なので一人一人がまとまろうとする事が当たり前でした。そのせいか、自分で努力してチームをまとめる力を身につける事ができなかったのだと思います。最高学年として、その力が無いのは致命的だと思います。この一年を通して、その力をつけていけたら嬉しいです。



球技大会を終えて感じたこと

高等部二年　鹿内　颯太

僕はいま高校三年生。このニューヨーク補習授業校W校では最高学年です。そんな僕は球技大会にリーダーという立場で臨みました。

僕の目標はもちろん優勝でした。去年も優勝していたので、この目標には自信がありました。

しかしそれは僕の想像を遥かに超える難しい物でした。その理由は開会式で校長先生が話していらっしゃった「チーム力」です。僕は球技大会が始まる前はその言葉を軽率に考えていました。なぜなら、自分一人の力で優勝を勝ち取れると思っていたからです。

球技大会はバレーボール、バスケットボール、ドッジボール、サッカーの四種目でした。全てがチームスポーツなのです。僕は一つ一つのスポーツをやっていくに連れて、自分の考えに変化が生まれました。それは、周りのチームメートを頼るということです。それまでは自分一人でという気持ちが強かったのですが、チームメートとコミュニケーションをとるようにすると自然とチームの雰囲気もよくなり、みんなの顔にも笑顔がありました。その影響がみんなのプレーに勢いがでてきて、勝利を収めることへと繋がりました。この時に校長先生の話していらっしゃった「チーム力」とはこういうことなんだなということを感じることができました。

結果的には二位で、僕の目標であった二年連続の一位は逃しました。しかし終わってみると、優勝した去年よりも充実感や達成感はとても大きかったです。その要因となったのが「チーム力」という学年を超えて結成したチームでの団結力が生んだものだと僕は感じました。

まだまだこれからたくさんの行事があります。「チーム力」を高め、最高学年として、一つ一つ全ての行事を成功させられるように頑張っていきたいと思います。










WASTE
GRAIN
waste
Grain



